

平成 1 9 年 3 月 2 5 日に発生したスラッシュ雪崩の調査結果について

1. 概要

昨年 3 月 2 5 日に富士山周辺で発生したスラッシュ雪崩現象について、発生範囲と速度について調査した結果をとりまとめましたのでお知らせします。

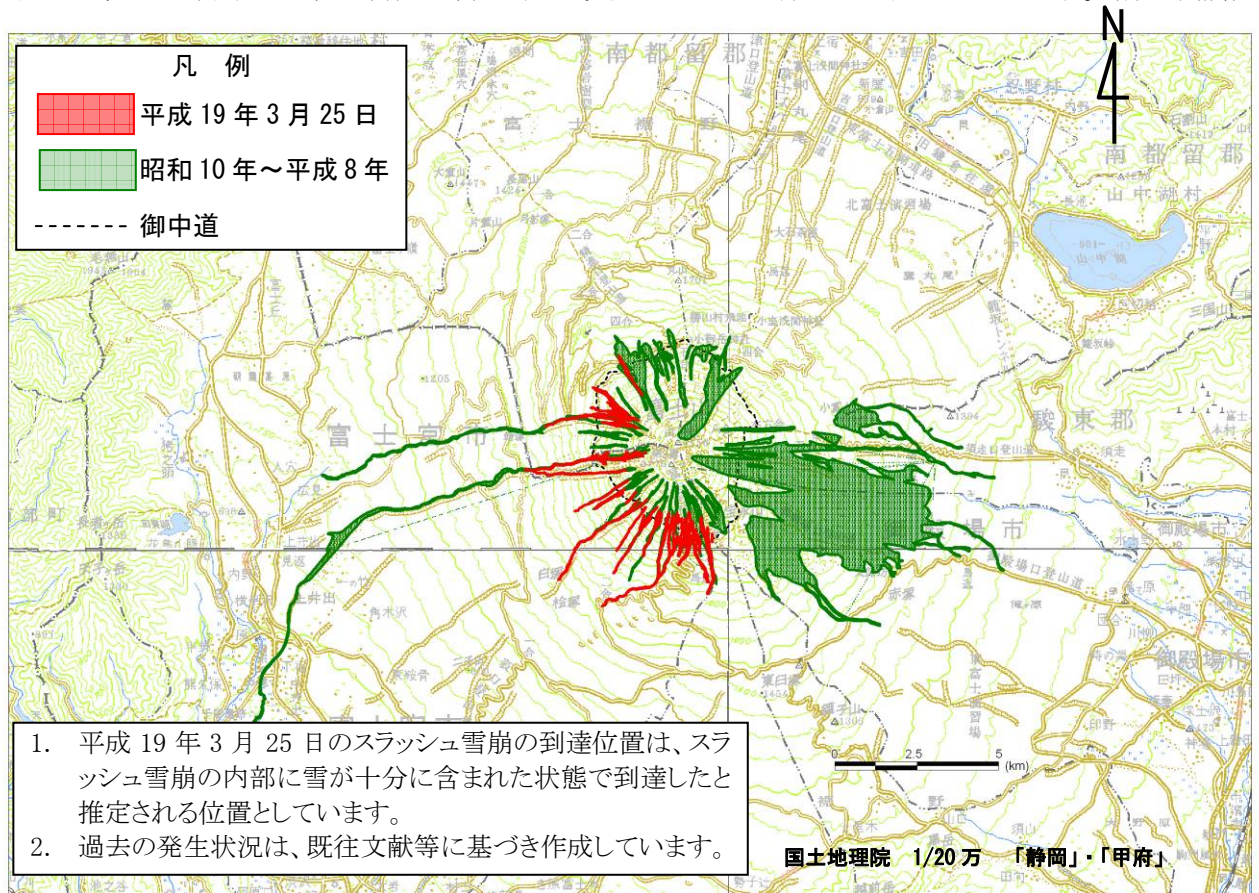
今後 7 月頃まで、急激な気温の上昇やまとまった雨が降った場合には、スラッシュ雪崩の発生が予想されます。スラッシュ雪崩が発生した場合、山林や道路に被害が発生する可能性があり、注意が必要です。また、下流市街地には富士砂防事務所により砂防施設を整備し安全対策を図っていますが、降雨の際は溪流に近づかないなど、十分な注意が必要です。

2. 発生範囲

昨年富士山周辺で発生したスラッシュ雪崩の発生状況は次の図のとおりです（赤色箇所）。

富士砂防事務所管内では、7 溪流（20 沢）でスラッシュ雪崩の発生が確認されました。スラッシュ雪崩は標高 2,700～2,900m 付近で発生し、標高 2,400～1,400m 付近の下流域にまで到達していることがわかりました。

図には、過去（昭和 10 年～平成 8 年）の発生状況についても合わせて表示しています。（緑色箇所）



(図) スラッシュ雪崩の発生状況

富士山周辺では、そのいずれの方向にもスラッシュ雪崩が発生する危険性があり、11 月～7 月（富

士山に積雪のある時期)に発生事例があります。これまでのスラッシュ雪崩によって死者や富士山スカイライン、富士スバルライン等への被害が発生し、スラッシュ雪崩の流下(土石等を伴った流れ)の影響により下流域では氾濫被害も発生しています。

3. 大沢崩れで撮影されたスラッシュ雪崩の映像

平成19年3月25日富士山大沢崩れで発生したスラッシュ雪崩の現象を、富士砂防事務所が設置した監視カメラで撮影しました。カメラ映像では、3月25日午前8時～12時頃までに6回のスラッシュ雪崩が確認されており、8時1分頃と8時46分頃に発生したものは比較的大きな流れでした。カメラ映像を解析した結果、8時1分頃と8時46分頃に発生したスラッシュ雪崩の先頭部の速度は以下のとおりでした。



(写真) 撮影されたスラッシュ雪崩の映像

(表) スラッシュ雪崩の速度

| 発生時刻 | 先頭部の速度 |
|------|------------------|
| 8:01 | 約 23m/s (83km/h) |
| 8:46 | 約 25m/s (90km/h) |

4. 配布先：富士市記者クラブ、富士宮市記者クラブ

5. 問い合わせ先

国土交通省 富士砂防事務所 TEL：0544-27-5221 (代表)
副所長 谷田 良三
調査課長 石原 慶一